

阿蘭院外科書

中

✕
12

阿蘭陀外科書

阿蘭陀外科書
西本邦刊行
全三卷

中
已

共三

494.2
Or-7
2

No
3206
R.012



富士川文庫

2979



阿蘭陀外科書卷中

エニフラストデベシイブニ

一ヨフリヨロザアロシ 六ナタ ヨフリヨメルテロウルニ 六ナタ

ソクキイラアデキスアルデイヤ六ナタラアデキススアラアギス子ス一撮

ホウリエイニス 一撮ホウリサリイセス 同

ホウリメルテロウルニ 同セイラニレイル 二十四タ

ラアテキスコニソリイタニヨル六タ 白鳥之肉之油 六十二タ

羊之肉之油 六十二タ テレメニテイナ 十六タ

ニス テキス 一タニカメラヘ 四タ八分

ナリハタニ 同 金ノルカス 廿三タ

銀之ルカス 三十三タホウルスアルメニヤ 十六タ

テイラシケラアタ 十六タニニイニヨ 五タ

サニギダラコワニス 五タレニスロイニヨ 二百タ

右煉様者常之エニフラストヨリ小扣ニイニクエントヨリハ堅ク煉テ便也
是ハ一切之愈高月菜也惡血ヲ押散惡血ヲヨセズ性若冷也金瘡腫物之甚



疼痛スル時付忽ニ痛止也

同銘亦カ

一サントロウフルメリ 十々 ロザアロニルウフルニ 十二々

カニフアラ 二々 セイラ 一斤半

ヲフリヨメルテロウルニ 六十々 メルテロウルニノ安良 八々

ホウルヌアルメニヤ 八々 メリロザアロニ 六十日

右煉合使是モ諸之痛ヲ止腫ヲ耗ス惡血ヲ押散惡血ヲヨセズ

エニフラストテヤキロニ

一ムカキヌニノ油 三斤 金之ルカス 一斤半

右油ヲ煎詰テルカスヲ入煉堅ル是ハ温ニメ諸之堅リヲ解シ疵ヲ縫テ

其上ニ付ル也

エニフラストテヤビロニカウニ

一ムカキヌニ之油 二百四々 金之ルカス 百二十々

アモニヤクニ 拾々 ヲホ、サクニ 十々

コルバナニ 同 サカベニ 同

テレメニテイナ 十々

右煉合使性ハ温也能毒腫物堅リ不膿時付レハ二夜之内ニ膿ニ成也諸

之冷テ痛処ニ付吉也

エニフラストアトストニ

一ヲフリヨロガアロニ三十々 セイラ 五十々

田土 五々 ヲリハヌニ 壹々

カニフアラ 壹々 銀之ルカス 七々

右煉様如^レ膏性ハ寒也傷火草瘡其丹金瘡腫物熱甚ク疼痛スル

エニフラストヲ加ツトブライミトロ

一セイラ 三十々 テレメニテイナ 八々

アキスグウヤホツクイ子三十々 セルイサ 廿五々

ヲリハヌニ 八々 ニステキヌ 八々

フルホウニヤ 八々

右煉合使性ハ温也^{一功ノ難治}

エニフラストキリビシヨニ

一テレメニテイナ 八匁 セイラ

鹿之油 十六匁 ツウチヤ

ヲヒスカラミナリス十匁 セルウサ

乳香 二匁 玉乳香

龍腦 一匁半

右煉合使一功之愈心膏月菜ニ良

エニララストテヤウニスシ子メリクウニヨ

一ヲフリヨカモメイリ 三十二匁 ヲフリヨレリヨウルニ

ヲフリヨア子イテ目 ヲフリヨミピツセイ

ヲフリヨロウトスイ子十六匁 アキソクニヤホツケイ子

ヘニグテニスイトリ子 九十六匁 ヲフリヨロウリイ子

乳香 二十匁 アイホロウヨニ

ラアニスビヘニテス 二十匁 ロニフレイカウロニタアレニラウ五十六匁

ホロウリスニアテレイカアルヤニ撮 二撮 ホロウリステカアロス

ソクケイラアデキスエイフリイ 三十二匁 テレメニテイナ 三十二匁

リコウユ 加減 入金ノロカス 百九十二匁

葡萄酒 三百八十二匁 セイラ 加減

ホロウリスセナニテ 二撮

右煉合使性温也諸之筋気脚気中風其外痛止也

エニラフスメリロウト

一リメテグメリロウト 四十八匁 ホロウリスアブセニテヨニ 三匁

ホロウリスカモメイリ 三匁 ヲフリヨニキヨラア 三匁

セイモニヘイスラコレイツベ 三匁 ハルアロロウリイ 三匁

ラアデキスサルテイ 三匁 ラアデキスミツヘレイ 二匁半

ラアデキスヒツセイナアデインテヤニ匁半カシヤレヌ子ペイ 二匁半

セイモニアミヨウス 同 セイモニアラピイ 同

カルタモニ 二匁半 ステラアキスカラメイテ五匁

コメヘタモニ 五匁 テレメニテイナ 拾匁

ヒイコス 七匁 コルホウニヤ 三十二匁

セイハルケイナ 三十二匁 セイラ 六十匁

ヨフリヨスビツセイ 十六匁 ヲフリヨニキラ子 加減ニ入

アラテイキスリ、レテス 二匁羊

右煉合使熱性也是ハ筋氣脚氣中風其外キ足打折タ取付テ吉也

エニプラストムスラキニブス

一ヨフリヨムスラキニブス四十八匁 コメアモニヤクニ 四匁

コメカルパヌニ 四匁 コメヲホハナアラキスリ 同

コメサルペイ子 同 コロウチ 二匁

テレメニテイナ 十六匁 セイラ 一匁

右煉様如常合使也性者温也諸冷タル取付良腫物堅リ不膿

付ハ一夜之内ニ膿也筋氣脚氣方ニ吉也

ムスラキニブス之油持様之事

一ラアデキスアルテイ 二十目 セイモニヘイヌコレツベ 十匁

セイモニリイニ 十匁

右三味細末メ熱湯五方合入カキ交一夜置テ翌日温メ布ニテ瀝

糟ヲ去テ其汁ニホルトカルノ油見合入テハラニテカキ交煎ニ五方之

水去盡メ後使此油之性ハ温也堅ヲ和竹助肉丹之痛ヲ和ル也癰疽疔

毒其外無名毒腫ハ押散又事ヲ忌也引上テ膿セ好ニテ胸ニ膿取

工夫何程モ吉故ニ先下地ニ免之油蛭之油ヲ塗付其上ニハシリコニヲ付テ其

上ニ何程モムスラキニブスヲ打也

エニプラストムスラキニブス

一ムカキヌニ之油 六十匁 アモニヤクニ 五匁

カルハヌニ 五匁 ヲホハナクニ 同

サカペニ 同 コロウチ 二匁

セイラ 百四十目 テレメニテイナ 二十匁

右皆一度ニ入煎ニ淡之立止時布ニテコシ使温性也

堅ヲ解ニ早膿ニ風ヲ防ク妙膏也

エニプラストデヤルニ

一金之ルカス 百目 枯樹石 拾六匁

唐之土 十六匁 ホルトカル之油 五十匁

セイラ 五十匁 白丹名石 十六匁

右油蟬煎詰テロリス唐之土入ル上テサニミ丹名明名入ル也冷ニメ諸
 之腫物難治ヲ愈右瘡者痂五年モ不愈付テ知有高ヨリ落打
 先時ハ酥ヲ加火之上テ煉合付ル其儘治ニ皮生ス

同銘

一金之ルカス 二斤羊
 フタ之油 二百八十目 自丹名
 枯 櫞 四十目

右煉合便能同前

エニフラストテヤボニホリコ

一セイラ 五十夕 唐之土 十夕

トミイヤ 十夕 アリストロキ

トウセス 十夕 メイラ 十夕

チフリヨウニウニ 十七夕

右煉時アセトウナノ油ヲ夕之ハ六十日程百夕ハ四十日程入テ煉也
 性寒也一切之愈高日也肉上リスキタルニ付ハ平ニ成ル也

エニフラストガラサテイヤ

一セイラ 四十夕 コルホウニヤ 四十夕

野牛之油 同 テレメニテイナ 二十夕

ニステキス 三夕 メイラ 三夕

ヘルテ 三夕

右煉合使也性ハ温痴ヲ愈腫物肉上吉

エニフラストテミイヨ

一辰破 一斤 ホルトカルノ油 二斤

セイラ 羊介 テレメニテイナ 四十夕

アリストロキ 二十目

右煉合便一切之愈高月茶能ハ皮ヲ生ル也

エニフラストメリロウト

一ホウコ草之水 六十目 カモメイリノ花 三夕

アポセニテ之花 三夕 名草之花 三夕

カモメイリノ油 三夕 同油 三十目

久年母ノ花

二匁五分

コロハ

三匁

同油

二十目

夕フノ實干メ

(三十目) 三匁上有

麻仁

二匁五分

小莖之根

二匁五分

肉桂

二匁五分

クニロク狐ノ油ニテ煉

十匁

丁香

二匁五分

ニユクニヤ

二匁五分

乳香

五匁

テレメニテイナ

十匁

没薬

五匁

ヒイクスセイカ

十二匁

コルボウニヤ

十二匁

セイイラ

八十目

野牛之油

四十目

右煉合使性熱脚氣筋氣中風其好并足打折クシキタルニ良頭之廻之腫物ニ吉乳癭堅リ有ニ吉温テ散也

ユニプラストヨニコロニヨニ

一セイイラ

六十目

コルボウニヤ

六十目

アモニヤアコニ

二十目

カルバヌニ

二十目

ニステキス

同

チヤニ

二十目

ウコニ

同

メイラ

同

テレメニテイナ

同

右煉時ホルトカルノ油三十日程之酢五十日程入蠟其外脂共何モ茶味ヲ入煎迄立止時布ニテコニ使但シアモニヤクニカルハヌニヨ右之酢ニテ別者更解シテ入煉也性ハ熱也筋ヲ和ケ堅リヲ解シ骨ヲ繼并足クニケタルニ吉脚氣筋氣中瓜ニモ吉

ユニプラストゲリジウニ

一ラアヒスカラミナリス

十匁

メイラ

二匁

金ノルカス

三十目

カニフヲ

(一匁) 二匁五分

ニステキス

四匁

唐之土

(五匁) 五匁上有

トミイヤ

(五匁) 五匁上有

セイイラ

二十五匁

テレメニテイナ

十匁

トウセ

四匁

野牛之油

二十匁

右煉時ホルトカル之油三十匁 程入テ煉温性也骨ヲ繼筋ヲ和ケ并足クシキタルニ吉堅リヲ解シ腫ヲ消ス疼腫ニ付吉也

一セイヤラ 五十目 同
五ノ目 同
ホルトカノル 同

唐之土 同

右煉合冷性諸之愈高月茶也便毒是ヲ付テ下ニ用ル也

イニクエニトアボストロウルニ

一アモニヤクニ 十四目 ルイタラキリヨレ 九目

アリストトロキ 六目 テレメニテイナ 六目

カルハヌニ 四目 メイラ 四目

ホルホウニヤ 六目 ヒテリヨウルニ 五目

タウセス 五目 セイヤラ 同

アスイニ 五合 ペルテ 二目

ホルトカノルノ油 羊介

右油蠟脂之類一度ニ入煎沫立止時布ニテコシサニ粉茶ヲ入ル也冷膏

也膿血ヲ吸抜肉ヲ流ニ肉ヲヨク止也腫物色惡ヲナキス田虫裏虫柘榴虫

ヒハシ白朮何之瘡モ吉也

イニクエニトスダニコロスト

一三イヤ 四十目 サギタタラコウニス 五目

椰子之油 二十目 セイヤラ 二十目

三ニイヤ (カク) アラクゾニホツスイニヨ 十目

右煉合便性寒也押茶關茶ニ吉打破スリムキタル取ニ吉也之瘡モ吉也

燒度モ

イニクエニトヲリウニ

一セイヤニレイラ 六十目 ホルトカノルノ油 三ノ目有

ニステキス 十目 テレメニテイナ 二十目

松脂 二十目 メイラ 同

ウコニ 同 十目有

右煉合便温性也諸ヲ散打身ニクジキタルニ吉也

イニクエニトウエツト

一セイヤブラニコ 二十目 ホルトカノルノ油 五十目

椰子油 同 大楓子油 五目

唐之土

羊行

ムスコス

五分

カニフル

一女五分

右煉合龍腦射香ニ果碎テ後ニ入性冷也諸之痛止愈ス也草瘡
ヲヤクニヨシ毒虫杯ニ所中難堪痛取ニ付テ吉也腹中甚痛ニ吉

イニクエニトバシリユニ

一ベツキ

八十々

セイウラ

同

コルホウニヤ

二斤

ホルトカルノ油

同

右二度入煎沸ノ立止時上布ニテヨシ使性熱腫物ヲ引上ケ能膿ス也

イニクエニトアルテイヤ

一ガニノ油

但ニ肉油也

二十々

犬之油

同

狐之油

同

アヒル之油

同

茴香油

同

カメメイリ油

十々

スベカイ之油

五々

石之油

同

ロウリイニヨノ油

十々

テレニテイナ

五々

セイウラ

羊行

ロニプレイカウロニ油

十々

アラキ

十五々

右煉合使性大温筋骨之痛ヲ和ケ筋ヲ伸ル也

一ペルテ

五十目

アルウエ

十々

一ホウ子キ

百四十目

アスイニ

七十目

右二度入煎アメ色ニ成時迄煉也性平胸ヲ流洗藥ニ入テ吉何之膏月
菜ニモ小宛因果メ吉也

一ホルトカルノ油

羊行

ソラアトロニ

同

唐之土

二十目

セイウフラニコ

百七目

二キレアルビ

十々

アリストロキ

十々

右煉様如常性寒也膿ヲ吸肉ヲ上愈草瘡ニ吉功疵ハニイラヲ粉ニメ加付
テ良人之油モ吉

一カニフラ

四々

龍腦

十々

セルウイサ

同

コルホウニヤ

同

ブタ之肉之油

十々

木綿之ホツリ刻タキ十々入ニ疵

ヲ二十四時ニ愈ス也

ヒリイト

コルホウニヤ

四十目

椰子油

三十目

トウセス

五々

千々

五々

小麦之粉

十々

右脂ト油煎ニ解ニコシテ残ニ味入テ煉大温性也古疵古瘡其外腫廣

クメ治也

イニクニトテイケステイホニ

テレメニテイナ

九十目

蜜蟬

廿目

ロウザノ油

二十目

玉子之黄

二ツ分

右ノ粉合テ後ニトウセスニ々メイラ同テイラニゲラタ同

右細末メ入温性也金瘡ニ初ヨリ付テモ吉肉ヲ早上愈ニス深疵ハ白蜜

ヲ煎ニ加ムスキイトノ化之油加テメイチヤニ付テ指入也腫物ニ同前也

ロツフトウリヨニ

ウストルニゲルプラント

六々

ヒテリヨウルニ

三々

フレイルスピトル

四々

右合テ腫物口明ニ吉也フレイルスピトル搗様水銀ト信石之水トビイ

トロニ火ヲ強クタケハ信石之水皆アハニ成フキスタリ黄也ニ成又水ヲ

入テタケハ色赤ク成也其時止

亦方

アマリアツウストニ

五々

ヒチリヨウルニ

五々

ワリニ

銅分ト有

ヘルテ

二々五分

右爲赤巴豆之油ニテ煉也針ヲ嫌又ハ針ヲ忌腫物ニ付テ口明也

コルコテイルノ青汁

五合

コルホウニヤ

五十目

ホルトカルノ油

小

右煉合便悪肉ヲ切膿ヲ吸上ル宛アラハメイチヤニ塗玉付指也

イニクニトハヅリコニ

ヘルサバストリ

五十目

イホウニ

同

ニギレアルビ 十匁 ペツキ 五十目
 ヲフリヨロウリイニ 十五匁 ホルトロルノ油 三十目
 セイラ 八匁 ウストルミナルブラニコ 十匁
 右煉様如常巾温性也膿血ヲ吸込肉ヲ公愈ス故也癰疽何様臈瘻
 リタル是ヲ付テ吉腫痛モ止ル也

同銘

一ヨフリヨロウサ 四十目 ホウ子キ 五十目
 セイラ 五十匁 ニキレアルビ 十匁
 ペルバストリ 八十目 イボウミ 二十目
 トウセス 四匁

右煉合使能右同ノ前

一ラアテキスアルテイヤ 百九十二匁 セイモシリイニヨ 九十六匁
 セイモシヘヌウコレツヘ同
 右ニ色粉ニメ熱湯六百目ニ浸リキ交鳥餅ノ如成タル時布テ瀝テ

ホルトカルノ油 三百八十目 セイラ 九十六匁

松脂 四十目 テレメニテイナ 十六匁

右煉様松脂テレメニテイナヲ煎シ解シ油ヲ入布ニテコシ右之湯ニ入セイ
 ラヲ入煉合也是ハ右之テアルテイヤ無時便也病性ヨリ油加サ樂吉有
 一ヨフリヨロサアロニ 百十匁 セルイサ 四十目

白蠟 三十匁 コニフラ 二匁
 右煉様如常ノ使性寒也熱ヲサニシ腫ヲ押散草子瘡傷火下疳ニ
 在吉

一アヒニ 五匁 セイモニスツヤアタ 七匁
 ヲルトセスニミラガウラ同

右三味細末ノ右之アヒニ之煎シ汁ニ入煉堅ル是ハ何之處ニテモ切テ
 取タキ時此茶ヲ切ント思処ニ小付テ一時程置置ニ甚痛也其後取ノケテ
 切度様ニ切テ取ニ痛小モ身ニ不覺久ク付置ハ胸スギテ惡也

アルホニ

一金ノルカス 四匁 龍腦 七匁

玉子之白味 二匁 銀之ルカス 四匁

ホルトカルノ油 十匁 酥 十匁

唐土 四匁

右粉ニメ酥ト油ヲ合粉ヲ入スリ合置也性寒也便毒押吉何様腫色トリ
テモ押込也其時下ニテ用テ吉

イニクエニトベルメイリヨ

一セイラ 三十目 辰砂 五匁

ミイニヨ 百目 サシギタラコウニス 五十目

玉子ノ黄 五ツ分 椰子油 三十目

ホルトカルノ油 加裁

右煉合便寒性也是ハスリムキ打ハリタル取吉燒所吉

イニクエニトヲ、テルトブ

一ホルトカルノ油 三十二匁 ミイニヨ 同

玉子ノ黄 五ツ分 木綿之ホツリ刻テ 十匁程

右煉様如也常煉使諸之朧ヲ抜吉膿ヲ吸肉上愈スナリ

亦方

一ホルウニヤ 五十目 ホルトカルノ油 小

玉子ノ黄 五ツ分

右煉様前同能モ同前一方青靈草之汁ヲ入テ亦可也

イニクエニトブラニコ

一セイラブラニコ 百目 ケイフニ 五匁

唐之土 五十目 雞之油 五匁

椰子之油 五匁 ヲフリヨロウザ 加裁

ホルトカル 加裁 腫腦 三匁

右煉合使冷性也草瘡下疳葛熱腫吉

イニクエニトアニレイラ

一椰子油 四十目 牛油 二十目

フタノ肉ノ油 同 セイラ 四十目

フルホウニヤ 同 乳香 二十目

黄栢

二十目

右煉合使温性也膿ヲ吸肉ヲ上ル諸之腫物ヲ愈ス也

同銘亦方

一黄蠟

五十目

黄栢

十夕

玉子之黄

五ツ方

ホルトリルノ油

加裁

右煉様同前也

イニクエニトサアア

一セイヤ

百目

松ヤニ

百目

ホルトリルノ油

加裁

雞之油

十夕

右餘也煉也温性能ハ膿吸肉ヲ上ル也

イニクエニトヒメニト

一胡椒之粉

羊介

右タハコ

一介

右水四升入五合ニ煎誥布ニテコシセイヤ百目雞之油ニ合入テ煉

堅ル性也瘰癧未タ不破而塊有ニ付ハ自治ス其外之腫物

ニ吉也

イニクエニトプレート

一ザニボウ切刻

見合

カ茄子同

百

スベリヒユ

右煉様水ニテ成程煮テコシ具汁ヲ煉ツメ使寒性也押ニモシメルニ吉

同銘亦方

一茄子

百箇カ

蝸牛

二十程

ハユベ

右煉様同前能モ同前

イニクエニトアギリヤニ

一アキリヤニノ書日汁

タハコ之書日汁

同

丹 峇

二夕

枯峇

二夕

椰子油

二十夕

ブタ之肉油

二十夕

セイウチ

五十目

ホルトリル油

二十目

テレメニテイヤ

十夕

右煉使温性也膿血ヲ吸拔惡肉ヲ切也メイキヤニ上ロ

イニクエニトヒクルニ

一ゴヨウ之松脂

肉 圭

ホルトカル之油

セイウ

一斤

十五匁

十五匁

同

丁子

丁香皮

椰子之油

同

二十目

十五匁

同

右和煉也大熱性也四月ヲ續疼脚氣中風打折タル処ニ付ル付様ハ下地ヲ木綿ニテ巻其上ニ酒ヲ拭クワカニ目ヲニワス程木綿之上ヨリタテ、叔此茶ヲ氣出ヌ物ニテ温メ右之木綿ヲ取テ除ケ此茶ハケニテ引也其上ヲ木綿ニテ巻テ置也十日程置テ付替也食物ハ温之物用禁物ハ冷之物血ヲ破ル物風呂杯惡ニ病人強ハ下ニテ用テ吉弱ハ煎茶可也

イニクエニトクレイベニ

一椰子之油

ニムニ

右ニ色氣ノ不出様ニ火ヲ靜ニ而一日煎シ布ニテフミ滓ヲ去四季之加減メ蠟ヲ入ル大熱性也是ハ竹助骨之痛ヲ打テ腫タル所何ニテモ痛前ヲ出皮

真中千一束切三節

ホルトカルノ油

一合

火ニテアフリテ此茶ヲ付テ引伸テヨシ冷タル所ヲ温也穴痔氣腫此ニ色ハ切々燒金ヲ當此茶ヲ付ヨ諸之胸リ物ニ吉也

イニクエニトホツポウリヨシ

一ツタ肉油

右ニ味ツニ漬置テ

ハロハアハルタア子

ラツトウカ

ペレイバツバアペレス子ケレ

ヘレイバソラトロニ

セニアロンドウビイ

右九色ニ撮宛セイウ加減セニビロビイハニヨル四撮フタウ酒ニ撮右煉様右ニ色之内入煎加減能時布ニテフミフタウ酒セイウヲ入ル温性也一功之節骨之痛ニ付ル也

イニクエニトモニトウニヨス

一フエニトロ之花

一撮

メハコ之花

同

蚯蚓酒ヲ洗

二百八十八匁

ペヨウステセアアメ 同

ニニダラカウラ

ペレイバヲニビロイキペイ子レス

ヘレイバヒヨウラス

小麦粉

同

葵之根

同

椰子ノ油

二合

ホルトカルノ油

二合

麻仁之油

二合

右ニ色之草ヲ此油一夜浸置テ翌日ニ煎シ布ニテコシ其油茶破一盃ニセイ
ラヲ三十目フタノ肉ノ油同 松脂同 右之油ニ是ヲ入テ煉合温性也 諸之腫
物之寒ハ風濕ヨリ発ル物ニ 吉風毒腫ハ牛之油ヲ小宛加テ付ル其後大黃
下ニ用テ吉也

イニクエニトテミニイヨ

一辰砂

三十夕

龍腦

二夕

セイウ

百目

ホルトカルノ油

百五十目

右煉合使冷性也破タルニモエモ吉打テ腫レタルニ良石火矢杯サケテ
破タル則ニ良

竹節和膏月紫

一大蒜

五十目

コエニトロ

二十目

又奈之木

二十目

黄蟬

二十目

松脂

(三夕) 二十目凡有

フタノ肉油

加裁

右煉合温性也風毒節氣脚氣ニ良

イニクエニトバシリフン

一ベツキ

三十目

松脂

二十目

セイウ

同

鹿之油

同

ホルトカルノ油

百目

右煉合使熱性也引上テ膿ヲ膿ヲ吸肉ヲ早ク止ル冷テ痛一則ニ付散也

エニフラストハジリフン

一ベツキ

百目

ホルトカルノ油

二十五夕

セイウ

五十夕

麒麟竭

三方

ニステイキス

同

白砂糖

同

ウツニ

三方

アセニヤク

三方

右煉合使温性也冷タル則ニ良蓋ニ獨良

エニフラストプロウ

一白蟬

十六夕

松脂

三十二夕

乳香

八匁

没薬

同

唐土

同

十二匁

八匁

ホルトカルの油

三十二匁

右煉合平性也諸腫物ヲ能愈ス

疵膏月茶

一白 蠟

十六匁

身田日四維

八匁

テレメニテイナ

十六匁

ホルトカルの油

八匁

右煉合使疵ニ付テ肉ヲ早ク生ケル愈心ス也

油茶

一ヨ、リヨロウザ性冷南赤虫イゲノ花之油也熱性之痛ヲ止テ足ノ瘡
タル時温テ塗テ付テ吉田虫裏虫何モ虫喰タル処ニ塗テ付ハ虫死也塗テ食
物不有吐逆スル時ハ湯ニテ用ル也

一ヨ、リヨリモメイリ性熱野菊ノ油也是冷タル処ヲ温メ竹節ヲ和ケ小瘡ヲ治能
散又性也吞テ大小便ヲ通

一ヨ、リヨアルデイア性温葵之花之油也是モ散又性也竹節ヲ和ル中爪ニホ
一ヨ、リヨイベリコニ性熱乙切草ノ花之油也疵ニ吉萬痛ヲ止ル筋氣

之類ニ吉耳之痛時ハ温テヤシ滴入ル打身之時腹痛ハ酒ニテ用テ吉
一ヨ、リヨヒヤウラス性寒野引草ノ花油也是ハ熱症之物ヲ押散ス也
瘡毒之類ニ吉也

一ヨ、リヨレリヨウルニ性温百合草ノ花之油也是ハ筋氣ニ吉殊ニ女ニ良難
産之時温テホワノ廻ニ能塗付テ平産スル也

一ヨ、リヨサニボウニ性温山スミレノ木花之油也是ハ右之油同サ前濕ツ氣
ヲ去ル油也第一打身ニ吉胃之腑ニ滯有テ面色赤ク口中ニ苦味有時ハ此油

三分一四付レハ愈ヌス主母獸ニ虫杯ニ喰ヒ痛則ニ塗付テ良亦ハ食事胸ニツカヘテ吐逆スル時温テ水ヲ浴ニ付テ吉也

一ヲフリヨニシナモミ性熱肉桂之油也是モ温メテ散ス油也心ヨリ発煩ハ何ニテモ吉怖々妊之廿四五ケ日時方ニ怒事カ竹大事カ過テ胎脱ヲ出ス時フダウ酒ニテモ又常之酒ニテモ用母之氣ヲ強クメ胎ヲ堅ム也

一ヲフリヨ又子ペレ 性熱ソナレ松之蜜身ノ油也是ハ小便ニブルニ用石淋ニモ吉産後ニ腹セニクカホ又十杯不下時四五雨路程用テ良瘕之肉ヲモ上ル也

一ヲフリヨヲホロニ 性温雞ノ卵油也是諸之痛ヲ止堅リヲ解ヌ寸白キニ入痛時付ハ腹中ニ治ル蓮之跡之毛ヲ生ヌヲヲモク寸ホヤケ切々塗付テ良疾塊切々塗付ハ散也

一ヲフリヨホツス 性熱男狐油也是血氣冷テメクリカヤキ処ニ塗付ハ血煩也竹筋氣中爪脚氣其外寒ヨリ発ル病症ニ吉也

一ヲフリヨヲウラフ 性微温金子之油也是ハ天地惡氣ニ中リテ頓死ルニ名ノ上ニ小置テ水ニテ天口入ル日腫之様ニ身之内何ノ処ニテモ黒成忽ニ死

煩出未タル時古ノ上ニ少置腫物ノ廻リニモ塗付ル其上鯨ノ尿ヲ一分能酒ニテ用テ良癩毒ニモ塗付テ吉

一ヲフリヨポロニペイ 性寒之鈆ノ油也是ハ瘰疾傷寒ニ裏熱甚湯ク時此之油ヲ四五雨路湯ニテ用火瘡之身内何ク成共黒ク成事有ニ此油酢ト唐土合テ付テ吉是ハ和言ノ丹毒ノ変カ

一ヲフリヨリイニ 性温麻仁之油也是ハ竹筋氣ニ吉温散油也女之腫痛ニ塗付ハ其儘散也

一ヲフリヨロサアト 性冷白イケ花ノ油也口ヲサ同前也
一ヲフリヨセニトベイ 蜈蚣之油是者諸毒虫獸ニ喰ヒ痛ニ塗付ハ痛止

腫モ引也燒ト之疼ヲ止也
一ヲフリヨロニプレイカウロン 性熱蚯蚓之油是ハ午足冷テヌクミタル時塗付テ良肩之痛ニ塗付テ吉是冷痛ニハテレニテイナノ油加テ塗付テ良諸事ニヨキ油也

一ヲフリヨソラトロン 性寒小茄之蜜身油也竹筋熱症之物ヲ押茶也丹毒ニ良一ヲフリヨモニトウニ性寒ユニ下口ノ油也是モ丹毒ノ類ニ付テ吉疔其外之熱病ニ良

一 疱瘡之余毒ハ此草ヲ煎シ洗テ此油付テ吉也

一 一ヲリヨミクテイヤ性熱安即花ノ油也イヘリヨニ同前毒瘡唐ノ朧リ物良瓜氣百毒
吉風ヲ引頭痛ニ塗付テ良熱氣表有ハ物惣身ニ塗テ吉也

一 一ヲフリヨポイトルヨウル性大熱性丹樹名之油也食不進ニ投之ハ花ノ蜜漬之
汁ニテ小穴用脾胃冷タル時モ用様同前下血モ同前喉渴煩時ハ荀
酒ニテモ水ニテモ用ニヤクリモ吐逆モ同前脾胃之痛煩時ハ投之花之
蜜漬之汁ヲ雞之水煮之汁カ亦強クニテ此油ニ三露路用此強キ故一茶
ハ不用也

一 一ヲフリヨスルフル性熱硫黃油病中ニ息タエニシキ時酒ニテ此油ニ三露路用テ
良丹峇之油ヨリモ和成故小多用テモ不若用保丹峇ノ油同前也

一 一ヲフリヨセイラ性平蟬之油也是者ハ知氣ニテ腫痛時塗付ル不仁之處ニ
付テ吉卒キ足引ツリ急ニゴブラカヘリ杯シタルニ付テ吉

一 一ヲフリヨフルテシツヒニイテレ性熱佛手柑皮ノ油也ハ腹中之痛時酒
ニテ此油耳カニツ程用テ吉不食ニ吉也

一 一ヲフリヨアラニシヤテロニ性温檳榔之皮之油也ハ胃之腑ニ風有

時イノニトノ油尚香之油ヲ加テニ三露路用テ吉嗜ソモ良也

一 一ヲフリヨケヒムスタルタリ性冷葡萄酒之樽底ニ堅リタルヲリハ是ニ
油有也温テ木綿之袋ニスツリテ下ニ器ヲスケテ滴ス也温有間滴也淋
病ニ用テ吉也

一 一ヲフリヨポツポウリヨニ性冷是ハ黒ツハノ葉之油也頭痛ニ夜子イラ
レス頭ニホメキ有モ額ノ辺ニ付ル骨杯打碎タルニテハニニイフニ付テ其上
ニ付ル和痛止ル脚氣ニ吉

一 一ヲフリヨセニニイプラ性熱生姜ノ油也頭冷亦ハ腹中杯之鼻汁滴テ
迷惑心スル時酒ニテ四五露路用殊之外寒ニテ白鼻ヒルコトモ不成時木綿ニ白
鼻插入カク也咳痰有風濕之類ニ塗付テ吉腫ヲ耗也

一 一ヲフリヨイリヨウス性燥温白芷斂之油也息臭時四五滴用喉之内腫テ
痛四五滴用シ鼻之内ノ瘡ハ丹峇ノ油ヲ小台其後此油ヲ付ル耳之内ノ
瘡腫物ハ若キアメント之油ニ見ニ此油一見合温テ耳ニ入ル也

一 一ヲフリヨルイト性濕温金之油ノ代ニ使也但ニ癩瘡ハ不使金之油ハ癩
毒ニ塗テ吉此草ノ之葉ヲ少生ニテ食ニテモ亦油ニテモ用ハ何國行テモ惡キ

一 一ヲフリヨルイト性濕温金之油ノ代ニ使也但ニ癩瘡ハ不使金之油ハ癩
毒ニ塗テ吉此草ノ之葉ヲ少生ニテ食ニテモ亦油ニテモ用ハ何國行テモ惡キ

瓜ミアタラス頻死セサル也紅毛ノ國ハ麻患國ニテ惡風多シテ人卒ニ死シ事
多其ヨリ毎朝用ル也亦毒虫杯ニ喰レテモ此草ヲ食シタル日ハ身強
成故ニ虫ノ毒身之内ニ不入故ニ不痛也此草無キ國ニテハ此油ニアフ
セニテ之油加テ用テトコ也

一ヨフリヨアモウラスカラモニエ性温聚之蝸牛之油也筋之痛ニトコ
諸之腫物疼ヲ止脱肛ニ吉破疔ニ吉温メ切々塗付ハ痛無ニテ其疔自
愈也

一ヨフリヨキヨクノメス性微温木瓜之實ノ油也是ハ筋氣ニ吉産後亦ハ霍
乱杯ニテ筋結タルニ塗付テ能也

一ヨフリヨアナド性微温耳之痛ニ良虚症之煩ニ吉也

阿蘭陀外科書卷中終

西玄甫

杉田甫仙

水野甫碩

